

第1回(2019)中等日本語教育授業教案コンテスト

教 案

使用教科書: 人教版 第 4 課 (全 8 コマの内、本教案は 2 コマ目) 1コマ 40 分

(例)第5課の授業を7回に分けて、この授業を3回目にする場合。(第5課 全7コマの内、本教案は3コマ目)

【要選択】(高校 ・ 中学) 1 年 クラスの人数 20 人

【要選択】 第一外国語 第二外国語 課外活動 その他()

日本語学習歴 3 年

この授業の到達目標

1. ドラえもん の 紹介 を 読んで 問題 に 答える
2. 動詞 の 可能 表現
3. 単語 の 読み 方

この授業の学習項目

1. 文章「ドラえもん」を読む
2. 動詞の可能形
3. 新しい単語の意味、難しい表現

時間	段階 (授業の 流れ)	練習・活動の内容(詳しく書いてください)	練習・活動の目的	注意点・ 使用するもの
5分	前作業	ドラえもんの映像を見せる T: このキャラクター知っていますか。 S: はい、ドラえもんです。 T: ドラえもんはなんですか、動物？おもちゃ？ S:。。。分かりません。 T: では次の文章を読んでドラえもんはどんなものか、ドラえもんはどんなことができるか、勉強しましょう。(テキストp54、ステップ1. 1読みましょうードラえもん)	文章に対する興味や関心を持たせる スキーマを呼び起こす ドラえもんはどんなものかなど考えさせる	短い映像 テキスト
25分	本作業	タスク 1: ドラえもんはどんなものかなどを考えながら早く読む T: ドラえもんはどんなものですか。 S: 略 T: どんな時に道具を出しますか。 S: 略 T: ~道具のできることを説明しましょう。	予測、推測の力を養う	テキスト 速読 簡単な問題は日本語能力が低い生徒に

		<p>S:略 T:「どこでもドア」はいつでもどこでも行きたい所へ自由に行くことができます。行けます。 「タイムマシン」は過去にも未来にも旅行することができます。旅行できます。</p> <p>板書: V1行く→行ける V2見る→見られる V3する→できる 来る→来られる</p> <p>練習:教師が動詞カードを提示、生徒に可能形を答えさせる</p> <p>※ ある、見える、聞こえる(×) ※ を→が</p> <p>練習:短い文を作って発表させる 例: 私は辛いものが食べられます 李さんは歌が歌えます。</p> <p>タスク2:ペアで分からない単語や文法に線を引しながらゆっくり読む</p> <p>教師が確認: 1.新しい単語の読み方を確認する 例:世紀、不思議、、、(14個) 2.文法の確認 ～でも、～てしまう、～だけでなく 3.接続詞 でも</p> <p>タスク3:グループで読む活動 文章を大きな声で読む ほかの生徒は聞く 分からない部分先生に確認する ※読みながら覚えておきたい単語、文法、表現を(一人一つ)五つ選ぶ</p>	<p>目標文法を生徒に気付かせる</p> <p>動詞の可能形の活用</p> <p>可能形の形や使い方が理解できているかを確かめる</p> <p>ペアで読むことを楽しむ協同学習</p> <p>協同学習</p>	<p>テキストp61</p> <p>可能形がない動詞もあること助詞に注意すべき</p> <p>熟読 新しい言葉や難しい意味を確認しながら読む</p> <p>テキストp62</p> <p>勉強できる生徒がリードする (可能形以外)学習シート</p>
10分	後作業	<p>文章を要約する練習: 「ドラえもんを紹介しましょう」というテーマで覚えておきたい五つと可能形を使って要約を作る 200字 宿題:自分が書いた「ドラえもんを紹介しましょう」の文章を見ないで次の授業で発表できるように準備する</p>	<p>文章を理解できたか確認 言語項目の確認 評価(成果物)</p>	<p>学習シートに書く</p>

工夫点・アピールポイント(どの部分に力を入れて作成したか、どの部分に注目してほしいか など)

1. 読む、聞く、話す、書くの組み合わせ。
2. 速読と熟読の目的に合わせた読み方。
3. インプットとアウトプット。
4. 核心素養育成を目指した読解授業(言語能力、学習能力、思考の質、文化意識を具体的にあらわした)。
5. 特に勉強できる生徒と勉強できない生徒みんな参加できるように気を配りました。
6. 読解能力を養うために読むための心構え、読む技術を養うための読み方、総合能力を求める要約作り。

この教案の中で、研修会で学んだことを活かした部分

- 1.日本語学科の核心素養とは(林洪先生)から習った言語能力、学習能力、思考の質、文化意識を具体的にあらわした。言語能力の活用、学習能力の自立と協同、思考の質の分析と判断、文化意識の伝播などがあります。
- 2.教科書をどう使うかー核心素養育成を目指す場合(李家祥先生)から習った評価表現ー協同学習で生徒の参画と貢献のバランスをとりました。勉強できる生徒と勉強できない生徒みんな参加できるように気を配りました。
- 3.読解授業のデザインと実施(高崎三千代先生)から習った読解授業の流れのモデル、段階と主な目的、読解授業分析
特に前作業では見せる、話させるなどをバランスよく取り入れ、関心や興味を持たせ、
本作業で速読だけ、熟読だけではなく、目的に合わせて二つを組み合わせる方法を使いました。
また、自分で読んだり、ペアで読んだり、グループで読んだり、三回読んで 読む技術と読む能力を養い、核心素養育成に力を入れました。
後作業では要約を作ることで言語項目の学習を深め、総合能力を発展させました。これは書くことで授業の内容を理解できたか確認できるし、評価できます。

※2 ページ以上になってもいいですが、項目は変更しないでください。

